事業承継・引継ぎ支援事例

京都府事業承継・引継ぎ支援センター
☎075－353－7120

宮津で３代続く土産物店を伊根町の会社が事業引継ぎ

≪第三者承継≫

［譲渡側］ 井上物産（経営者：井上京子 65歳）

［譲受側］ 株式会社ぼんぼん（代表取締役：澤田秀太）

＜京都北都信用金庫との連携による支援＞

相談者の概要と支援の経緯

▸井上物産は、昭和11年に宮津市キセンバにて創業した土産物店平成12年に井上孝司氏（井上京子の夫）が3代目として引継ぎ、平成13年10月に現在の丹後一宮元伊勢籠神社のそばへ土産物店を移転されました。地元密着を志向し地域限定お菓子、缶詰、黒豆商品、地酒等を取り扱う店舗づくりに注力してきたが、後継者が不在であること、健康上の理由から自身の代で事業を終わろうと検討していました。（息子の孝一氏は茨城県在住）

▸店舗の今後について取引金融機関の京都北都信用金庫に相談したところ、京都府事業承継・引継ぎ支援センターを紹介を受け面談の申し込みをされました。しかし、孝司氏は面談予定日の前日に急逝、北都信金は当センターと協議し、孝司氏の妻である京子さんに面談中止の旨を伝えましたが、「息子（茨城県在住）が帰郷している間に面談を実施してほしい」という強いご希望があり面談は実施されました。

事業譲渡の調印を終えた井上京子さんと澤田社長

地域に親しまれた土産物店「井上物産」
ロゴは今も受け継がれています

体験型土産店舗に生まれ変わった「ウミャー堂」
（旧 井上物産）

マッチングと“思い”の引継ぎ

▸京子さんと孝一さんには、長年地域に親しまれてきた土産店舗の継続を望む気持ちがあり事業譲渡をする場合には①府中地区の観光に貢献すること ②自治会、観光会と調和を第一に考え業態は変わってもよい、という条件を提示されました。

▸特に②の条件は当センターのデータベースだけでは引き継ぎ相手探しに限界があると判断し、「孝司さんが亡くなったことを知った周辺の方には、事業を引き継いでくれる人を探していることを伝えるよう」京子さんに進言しました。面談から3カ月ほど経った頃、京子さんは空き家対策で周辺調査をしていた若者に事業の引継ぎへの思いを打ち明けたそうです。その若者は伊根町で多くの事業を手掛け、地域活性化に貢献している株式会社ぼんぼんで役員を務める澤田孝太氏でした。孝太氏は兄で同社の代表取締役の秀太氏に京子さんと会うよう要請しましたが、秀太氏はその時点では事業の拡大には前向きではなかったが、とにかく京子さんと面談することにされました。

成約に至ったポイント

▸面談を進める内に、澤田秀太氏は京子さんの人柄に惹かれ、代々引き継がれた土産物店への熱い思いを感じ、事業を引き継ぐことを決心しました。「僕たちが土産物店を引継ぎ、将来、今度は孝一さんがこの地へ帰ってきたときに事業承継ができるよう磨き上げたい」。京子さんの人柄と思いが秀太氏に強く伝わったこと、そして地域を盛り上げたいという志が成約に至ったポイントです。引継いだお店は「ウミャー堂」天橋立店として、縁日をイメージするような体験型土産物店として進化しオープンしています。

センターの対応

①相談対応及びマッチングの助言 ②京都北都信用金庫岩滝支店によるきめ細やかな進捗管理に対する連携 ③引継ぎのスキームの提案及び契約に至るまでの整理事項の確認 ④事業譲渡契約書作成支援 ⑤京都北都信用金庫地域創生事業部と調印式の共同企画・設営

京都府事業承継・引継ぎ支援センター
承継コーディネーター 梅原克彦

ひとこと

地域貢献及び地域調和を条件とした相手先のマッチング支援でしたが、相談者である井上井京子さんご自身が引継いでほしいという強い気持ちが澤田孝太氏と繋がり、京子さんの人柄と事業に対する強い思いが澤田秀太氏の心を動かし、引継ぎに至ったご縁と思いの引継ぎであると確信しています。